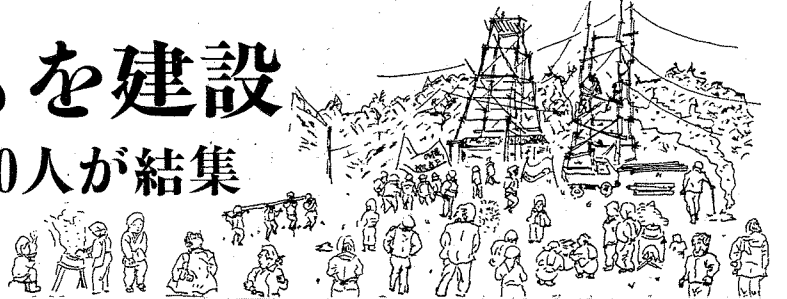


二期工事阻止の決意示す 三里塚芝山連合空港反対同盟

大やぐらを建設 全国から300人が結集



横堀共同墓地にそび立つ大やぐら

二月二日、三里塚空港二期建設予定地のどまんかに、反対同盟は抵抗のシンボル、六・五の大やぐらを立てた。場所は横堀用滑走路と、いまの滑走路と並行して走るC滑走路の交差点という、二期工事の中心地点の横堀。

この日は横堀部落の共同墓地には、五年前にたてた五・五の足場丸太の大やぐらがある。このやぐらには「安らかに眠る先祖を妨げるな」と、書いた看板がかかげられ、反対同盟の抵抗のシンボルとなっていた。五年間もたつ間にやぐらが傷んでいたので、改修しようという事になっていたが、政府公団の二期工事着工に対して、反対同盟の不退転の意志を示すため、前回より一桁高く、電柱用の丸太を使った本格的なやぐらを建てたことになった。

大晦日まじかにもかかわらず、全国各地からかけつけたのは、反対同盟の緊急のよびかけにもかかわらず三〇〇人をこえる人たち。朝八時に工事現場に集まった支援の人たちは、材料をかついで運び込む。五をこえる丸太は三〇人ほどで、途中検問の警官も、いつもは居丈高なのに、この時ばかりは大丸太でつかれないか、と及び腰。仕事が始まると、警察の車に囲まれた公団が「工事をしている諸君に警告する。諸君の工事をしている用地は空港用地である。直ちに工事を中止して……」とわめくが、皆黙々と仕事。八〇人ほどずつ、四方面に別れて、綱を引き柱を立てていく。みるみるうちに四本の柱が立ち、桁が釣りあがられ、ボルトで固定していく。夕方四時すぎには完成。昼食と夕方には反対同盟婦人行動隊が炊出しの熱い豚汁は、はらわたにしみ通るようだった。(関連記事は2面)

活動、米核戦略——太平洋洋安保とNLP基地建設、海洋資源の保護、村おこし島おこしとは何か、島の暮らしと基地反対運動(三宅島の人)。映画、コンサートなど。島内イベント。森林浴とボードウォークのレクリエーション(バイク)による島内一周ラリー、歩け歩け島一周(約七時間)コース、磯釣り大会(初級から上級まで)、火山活動調査(雄山登山)と砂漠でのマウンテン、文学散歩と史跡めぐり、島の料理を楽しむ

「幸せうって、何だっけ、何だっけ」とサンマが歌うCMを口ずさみながら、人は確かであったはずの幸せがどんどん見えなくなってしまうことに気づく。家を建て、電気製品を揃え、心の中に作りあげてきたはずの豊かさが、冷たい重圧の中で色あせてくる。時代の激動の予兆とも言える事故と爆発が続いた一九八六年、誰もが実感した経済の先行きの深刻さの中で、人はこれまでのやり方、考え方を徹底的に変え始めた。人と人とが結びつき、ささいな違いを乗り越えて広がりが見える。生活防衛のためであることに違いないが、そこに生活改革の可能性もまた生まれてくる。一九八七年卯年。ウサギのクソのようにコロコロのこまぎれ思考では益々ふりまわされ、判らなくなる年になるだろう。押し込められ、たたかれ、潰されていく労働者の生活の中から、その流れは既にほとぼり始めている。その見えざる流れをよりあわせる努力を！(M)



シャル・ベトレーム著「ソ連の階級闘争、一九一七—一九二三」が第三書館から出版された。ベトレームはマオイズムの立場からのソ連革命史研究者として、フランス国内だけでなく、世界的にも名の知られた学者である。中国における文化大革命の最中、フランス・中国友好協会の会長を務めていたが、四人組逮捕に抗議して辞任している。その間の中国の文革に関する彼の見解は「毛沢東に背いた中国」(日中出版)で、日本語で知ることが出来る。この本はソ連が資本主義国家に変質したのかどうかをめぐって国際的な論争をまきおこしたが、私が興味をもったのは、その事よりも、階級闘争の革命前と後を通じての連続性という見方だ。これは革命が起ったからといって、人間がそう急に変わるものではないから、当然な事だが、非常に新鮮な印象を受けた。一読を！(W)

三宅島アクションボート87

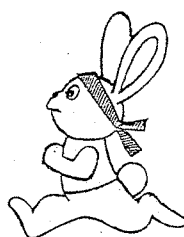
米軍基地反対運動 とのつながり求めて

伊豆大島の南、太平洋に浮かぶ三宅島に、米軍のNLP(夜間離発着訓練)基地建設を政府が計画したのは三年前。全住民四〇〇人あまりのうち八五%の人たちは、この計画の白紙撤回を求めて闘っている。いま東京都・神奈川県を中心に二(日本はこれだけの)か市民連合)、大久保青

志(アトミック・カックエ・フエスティバル実行委、新倉裕史(ヨコスカ市民グループ)、吉田嘉清(平和事務所)の各氏。計画を呼びかけるにあたって事前に島をみておこう、と一月一三日に、前記の呼びかけ団体のほか、生活クラブ生

と強調する。「三宅島アクションボート87」はこの原則を尊重し、島の反対運動に介入したり、一定の方針をおしつけようとするには絶対に反対し、まず島の実情をしり、反対運動との心のつながりをつくることを目的に計画された。

スケジュールは今年三月六日(金)午後七時船上集会、一〇時半出発、八日(日)午後八時、東京港で解散。船内でのイベント。講演テーマ、伊豆七島の歴史と文学、島にくる渡り鳥たち、島の自然と火山



活動家と称する賢い人の中に。(O)

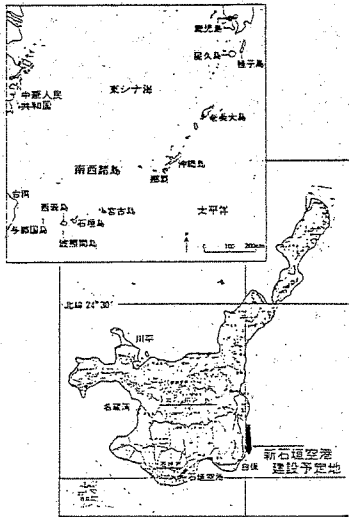
新石垣空港の建設計画

揺れるサンゴの島

(2)

華やかさの 前に

石垣島。地理的には沖縄本島よりも、むしろ台湾に近く、文字通り最南端の島である。面積二二・〇九平方キロ、年平均気温二二・六度という、亜熱帯性気候の南島である。サンゴ礁がグルリと島を囲み、年間約二〇万人の観光客が「エメラルド色の空と海」を目指してやってくる。本土観光資本は、こぞって華やかなボスターと小麦色のイメージ・ガールを駆使して。南の島・石垣島へ



と誘っている。その観光客。現実の島を知らずと訪れる人は、残念ながらごく少数であり、多くは格安のバック旅行で一時のリゾート気分を味わっているようだ。空港からホテルまでタクシーで一直線、おきまりの観光コースのあとには、トロピカルドリンクとバーベキューに舌鼓を打ち、そぞろ自然を無視したサンゴ礁に砂をプチ込んだ人工海浜で日光浴を楽しむ。

いかに南国とはいえず、たい三月の雨の中、サトウキビ刈りにいそしむ農

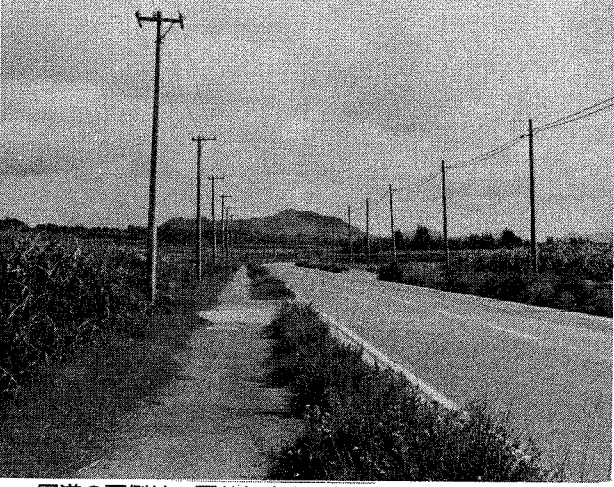
第1部現代の大津波 観光コースからは みえない島の姿

撃したことか。ひとくちに観光公害とくくる前に、人としての感性を疑う。彼らの行動があつた。

七〇年代前半、土地買収運動で命脈をつないだシマは、再度「新石垣空港建設」でかすかな灯を消されようとしていた。それと関連して政府・沖縄県当局による農業政策の産物である、サトウキビ、パインのモノカルチャー農業があるのだ。延々と続くサ

膨大な 浪費と

空港からタクシーでものの数分にSホテルがある。この企業は新空港問題が現れた当初、白保



国道の両側は一面サトウキビ畑

返している。石垣島の隣の竹富島（人口三〇〇〇人余、世帯数一三〇余）同等の電力を消費している。現在、石垣島（石垣市一島一市）の人口が四三〇〇〇人であるから、Sホテル

交通違反で 恩を売る

交通切符は四枚つづりです。交通違反者を見つけて切符をきる時は、まず彼に運転免許証をださせ、氏名、生年月日、住所、本籍、免許証番号などを書いていきます。最後に二枚目に「供述書欄」があり、「私が上記違反をしたことは間違いないと認めます。事情は次の通りであります。ハイ。違反が間違いないから名前を書いてください。指印をおしてくださ

警察の正体 現職・退職 警官が暴く

「お前わからへんのか」「酒のんでたからなあ」「そうか、書くぞ」「私は酒を飲んで大部よってましたので、山本さんの顔をなぐったのは何発かよく覚えていません。何発だったかわからないくらいなぐりました」とかいて、相手がわからないくらい早口でその調書をよみます。あとで読むと、二、三〇発はなぐったかのようにとれるんです。警察のなかでは事件は小さければ駄目なんです。大きくしなければとありあてられませんか。どうしても大きい事件にしようという心理が警官に働いて、デッチあげになつていくんです。

「私たちが頑張っている限り 空港は絶対できない」

二期用地内の小川源さん語る

二期工事の用地内で農業を営んでいる小川源さんは次のように語る——政府公団は二期工事が始まったってさかいでいるけど、自分達の土地のなかでやっているだけじゃないか。

二期工事の用地内で農民が頑張っている限り、俺たち用地内で頑張っている農民がいない限り、空港は絶対できない。俺達は空港公団にとって、目のうえのコブとこじやない、心臓のコブだ。今日たった大やぐら

は、二〇年間闘い抜いてきた反対運動のシンボルだ。大勢の人の協力で建てるのができて大変うれし。家の周りはフェンスにかこまれ、田んぼへいくにも警察の検問だ。家族が買物に行くにも、いちいちやられる。うちへ訪ねてくるお客さんもうだ。こうしていやがらせして、俺達を追い出して、空港を作ろうっていうんだから、敗けら

焚き直して入った。だからあがるとき、あかがべつとりついて……風呂かあがある時、あかがつかないようにしてあがったもんだ。そんな苦勞をして手に入れた土地なんだ。手放せるもんか。開拓者精神で頑張るよ。俺達を「暴力学生・過激派と一緒に」っていうけど、警察はどうなんだ。夜の検問は必ずといっていいほど、酒の

「お前わからへんのか」「酒のんでたからなあ」「そうか、書くぞ」「私は酒を飲んで大部よってましたので、山本さんの顔をなぐったのは何発かよく覚えていません。何発だったかわからないくらいなぐりました」とかいて、相手がわからないくらい早口でその調書をよみます。あとで読むと、二、三〇発はなぐったかのようにとれるんです。警察のなかでは事件は小さければ駄目なんです。大きくしなければとありあてられませんか。どうしても大きい事件にしようという心理が警官に働いて、デッチあげになつていくんです。

えん罪を 生む土台

調書のとり方ひとつで、いくらでも犯罪をデッチあげることができまう。私警察官になりたての時、不思議に思ってた。一〇番があとで、最後の一枚だけのこと、あと全部かきかえても、文章だけ最後の一枚につづくようにしておけば、通すことができます。私が警察官になりたての時、不思議に思ってた。一〇番があとで、最後の一枚だけのこと、あと全部かきかえても、文章だけ最後の一枚につづくようにしておけば、通すことができます。

「米の輸入自由化」ってなんだ

二重米価制

一九四二年に戦時経済体制の一環として成立した食糧管理制度(食糧制)は、敗戦後の農地改革による生産力の発展を支え、一九六〇年の二重米価制の採用以降今日に至るまで、生産者(農民)と消費者(農家)の対立を煽るキャンペーンを展開されてきた。

この「世論」形成は最近の国労ナメケノキャンペーンにも見られる。そしてコメについて、農民と消費者の対立を煽るキャンペーンを展開されてきた。

今年の生産者米価決定においては、五大紙をはじめ全マスコミは農業過保護キャンペーンを打った。新聞の「声」欄には本米利権を同じくする市民から農民を「エゴ集団」「国賊」呼ばわりする活字が躍った。

しかしその間、財政の硬直と低成長の打開という課題に直面した政府・資本は、農民と消費者に負担を転嫁しようと動いてきた。とくに近年の日米経済摩擦に、コメの自由化・食糧制度解体に本腰を入れている。

分割支配

「民主主義」にあっては社会の仕組みを変えるには、支配者の号令だけでは不可能だ。かつてコメと並んで食糧制度の下にあったムギが日米安保条約・MSA小売協定の転換による、アメリカの余剰小麦買入れとともに壊滅してしまったのは、

「三Kの赤字」といわれたコメが、国鉄・健保と組上りのぼってゐるのだ。

問題点の整理

いま展開されている農業見直し、食糧制度の証拠を見ておこう。

コメは余っているのに国際的に一〇倍も値段が高いのは、食糧制度や補助金による農民甘やかしが原因だ。おかげで消費者は税金のムダ使いと高米価という二重の負担にあえいでいる。市場原理を導入してダメ農民(とくに兼業農家)を排除し、規模のメリットを享受できる大規模専業農家を育成すべきだ。

さらに、国際化の時代にコメだけを例外にしておくとはいえない。自由貿易こそが日本の生き残りの道だから、コメを自由化すべきだ。自由化しても対抗できる専業農家をつくらばよい。競争に敗れてもコメを輸入すれば貿易産業は解消するし、そうすればもっと日本商品を輸出できる。

円高下で国内米価は一〇倍高くなっている。数字上ではこれは正しい。しかしコメはそう単純ではないのだ。

今日国際取引の目安になっているのはタイの輸出価格である。それが安価なのは、農業不況に悩むアメリカが、様々な補助金をつけてダンピング輸出しているのだ。対抗上安値輸出を余儀なくされているのだ。

タイにとってコメ輸出は貴重な外貨獲得源である。アメリカの安値に抗せざるを得ないのだ。

序の下で、途上国がますます不利な交易条件を強いられつつある一つの姿である。

もっとスナナに考えてみれば分かり易い。タイの輸出価格が安いという事は、タイの農民の手取りが僅かであるということであるのだ。これは大幅赤字の日本に住みながら、生活が毎日シンドイことを実感できる我々には非常に納得し易い。コメを食用としないアメリカでは輸出は至上命合である。そのため輸出補助金を出して米価を低めているが、その財政負担は耐え難い。といって累積債務を抱える途上国には売れないから、カネ持ちニッポンに狙いを付けたというわけ。

百万トンの市場をもつ日本が輸入すれば、生産量がわずかに四割の千二百萬トンが国際取引されているのだから一挙に値は上がる。とすれば、アメリカはなんらの補助金も出さずにコメが売れるというわけなのだ。

このようなら人為的に操作された一時的なコメの国際比価をもって、日本のコメが高いとわめき、そしてそれが感覚的に受け入れられて、反農民キャンペーンに利用されているのだ。

国鉄の場合と同様にコメについて過剰宣伝されているのが、補助金・食糧赤字である。外国の場合と比べてどうだろうか。

穀物自給率三割をこそこの日本と七割以上の欧米——その数字の差はこうした農業保護の差の結果なのである。国鉄の場合と同様

農業予算の国際比較 (1983年)

	日本	フランス	アメリカ
農業予算額(%)	27.4	35.0	31.3
農業総生産額			
農業予算額(%)	5.8	10.0	5.6
国家予算額			
農家1戸当たり農業予算額(万円)	65	270	445

	日本	E	C	アメリカ
農産物価格支持算(億円)	6,974	33,386		45,096
農業関係予算(億円)	36,852	51,401		110,923
比率(%)	18.9	65.0		40.7

生産者米価の政治性

生産者米価は農協・コメ議員の政治圧力によって引き上げられている、と常に糾弾されてきた。とくに今年度は米価審議会の引下げ諮問にも拘わらず、政治力で据え置

算定すると決められ今日得補償方式によって米価以降の米価を試算してみると次のようになる。つまり何一〇兆円という損失を農家はこうむっているのだ(前表の八年間だけで一兆円の損失額となる)。

家族労働時間報酬の相対比率 (1時間当たり) (単位 円、%)

年次	項目	家族労働報酬	製造業賃金(30人以上)	比率
78年		856.00	1,221.95	70.1
79		717.75	1,280.23	56.1
80		621.50	1,372.45	45.3
81		584.25	1,464.09	39.9
82		565.00	1,523.07	37.1
83		540.50	1,568.01	34.5
84		904.88	1,619.14	55.9
85		766.63	1,666.84	46.0

米価の政策的抑制による損失額試算

項目	決定米価①(円)	試算米価②(円)	差額③(円)	集荷量④(1000t)	損失額⑤(億円)
78年	17,019	24,003	△6,984	8,786	△10,227
79	17,005	25,103	△8,098	8,352	△11,272
80	17,418	25,765	△8,347	6,533	△9,088
81	17,487	28,190	△10,703	6,770	△12,077
82	17,681	31,192	△13,511	6,993	△15,757
83	17,996	31,084	△13,088	6,961	△15,184
84	18,398	33,424	△15,026	8,125	△20,348
85	18,398	30,905	△12,507	7,906	△16,480

に至っている。この方式は一定の農家の階層の生産費を基礎に、投下された費用を償うとともに、家族労働費については製造業従事者(労働者)の平均賃金で評価して米価を算定するというもので、都市と農村の差別を解消すべきものであった。

にもかかわらず、次図のように、生産者米価はそうした方式の理念を現実にしていない。米価算定要素を政府が都のよいように毎年いじくっているからであり、米価抑制が基礎にある。

労働者(市民)の半分以上の賃銀でしか評価されてない農民が、なぜ過保護視され優遇されているといえるのだろうか。

一九六七年の算定要素を不変としたとしてそれ以降の米価を試算してみると次のようになる。つまり何一〇兆円という損失を農家はこうむっているのだ(前表の八年間だけで一兆円の損失額となる)。

このように農家は惨々に収奪されてきた。従ってコメづくりは赤字なのだ。

「農業は過保護だ」、「農民は甘やかされている」と、わめく都市民がそれでいて自分でコメ作りしないのは了解されよう。

なぜ農民はこんなにも抑圧・収奪されるのか。コメという食糧が安くればそれだけ賃金が安くてもよい——これに尽きる。かつて一九世紀イギリスで穀物条例をめぐる大論争がなされ、結果百頭しつあった資本

家が地主を敗退させて、外国産の安い穀物輸入に成功させた。賃金引下げに結果したのは言うまでもない。

石油ショック以後の日本経済の「成功」は賃銀切り下げのたまものであるが、それを可能にしたのが米価抑制(実質的な引下げ)なのであった。

いまコメ自由化を一部労組も主張している。賃金上昇を望めない現状でいかに生活費を切り詰めるかが彼らの問題意識にあるのだから、政府・資本と一体になって農民殺しをしたあとで彼らが次にやられるのは、一九世紀イギリスの教えるところだ——「コメが安くならんだから賃金を下げてもやっていけるやろ」。

一九六七年の算定要素を不変としたとしてそれ以降の米価を試算してみると次のようになる。つまり何一〇兆円という損失を農家はこうむっているのだ(前表の八年間だけで一兆円の損失額となる)。

このように農家は惨々に収奪されてきた。従ってコメづくりは赤字なのだ。

「農業は過保護だ」、「農民は甘やかされている」と、わめく都市民がそれでいて自分でコメ作りしないのは了解されよう。

なぜ農民はこんなにも抑圧・収奪されるのか。コメという食糧が安くればそれだけ賃金が安くてもよい——これに尽きる。かつて一九世紀イギリスで穀物条例をめぐる大論争がなされ、結果百頭しつあった資本

されてゐるのだ。自然を台無しにしているだけではない。大企業者に押しつけるものであっては本来の主旨から逸脱してしまう。A県、Bさんのコメが美味だ、それを求めて何故悪い、というのはいくらも消費者のエゴである。

作った地域で消費するのがある。新潟県のコシヒカリが美味だといって、すべて東京へ送ってしまうのであってはならない。

石油確保のためにシーレーンがまかり通るのだから、コメを外国に頼ることになれば、またぞろ防衛費は急上昇するのは目に見えている。コメを守ることは軍事国家への歯止め重要なポイントになっている。

かつて奄美へ行って白米が食べたいとボヤいたボクに、S嬢は「ゼイタク言うな。ここで白米を食べることと新潟で白米を食べることは決して同じではないのよ」と厳しくさした。ボクはハットさせられた。

私達は……

コメが余っていると云われるが、それはコメの消費量が格段に減っているからなのだ。食生活の「近代化」のたまものなのだが、牛肉・生産するのために必要なエサの穀物は、トウモロコシ換算で20%必要という事実を見直す時ではないだろうか。

コシヒカリ・ササニシキが美味だからといって、それを追い求める消費者は、農民にコシ・ササを作ることを強制してしまっており、それは適地適作という古来からの自然に見合った生産を失わせているのだ。近代の冷害の頻発はそれが原因だ。

いかに「生産者の顔の見える食べ物」という

産直運動が立派であって、消費者の嗜好を生産者に押しつけるものであっては本来の主旨から逸脱してしまう。A県、Bさんのコメが美味だ、それを求めて何故悪い、というのはいくらも消費者のエゴである。

作った地域で消費するのがある。新潟県のコシヒカリが美味だといって、すべて東京へ送ってしまうのであってはならない。

石油確保のためにシーレーンがまかり通るのだから、コメを外国に頼ることになれば、またぞろ防衛費は急上昇するのは目に見えている。コメを守ることは軍事国家への歯止め重要なポイントになっている。

かつて奄美へ行って白米が食べたいとボヤいたボクに、S嬢は「ゼイタク言うな。ここで白米を食べることと新潟で白米を食べることは決して同じではないのよ」と厳しくさした。ボクはハットさせられた。

個人の体験

コメが高い・安いという次元で食糧問題が議論されてしまっている現状から、もっと自分たちの食生活・それを規定している社会に目を向ける気運をつくり出していきたい。

おこたわり

四面に連載中の「放射能の不安は消えたか、チヤルノブイリ以後のヨーロッパ&日本」は今号休みました。

(編集部)

1 内需拡大の 大合唱

いま、すべての政党も財界も「内需拡大」を唱えている。わが国の政治家や財界ばかりではない。外国の資本家も日本の内需拡大を要求している。これほど政策の基本において意志一致できたことがこれまでにあっただろうか。わが国の経済政策に関してこんな内外の意見が合致するのは、大変喜ばしいことだろうか。それとも、どこか根本的なところが狂っているのではないだろうか。

①から順に、社会、公明、民社、共産、自民、新自、の順だが、当たりまちたか？ 当たらないのが当たりまえ、中味にたいした違いがないのだから。

まず、どの党も同じことを言っているという現象をどう考えるか。これ

②「二兆円規模の減税を柱に内需を拡大し、円高不況を克服します」

③「輸出第一主義よりも内需拡大を」

④「円高は正、マル優廃止と大型間接税を許さず、中小企業に仕事がある生活密着型の公共投資を」

⑤「総合経済対策による国民生活の安定と内需中心の景気の拡大」

⑥「円高苦境の克服と大型減税を」

「減税」を唱えている。こ

政党の欺瞞を衝く

(上)

は、政党の怠慢、墮落、いいかげんさ、不真面目、不勉強、等々あらゆる難言を政党に投げつけ、も、まだびたりしないなにかがある。この「なにか」を考えていきた。

ついでに言えば、減税と内需拡大の二大コースに加わっているのは、大

は、政党が声をそろえて、いいかげんさ、不真面目、不勉強、等々あらゆる難言を政党に投げつけ、も、まだびたりしないなにかがある。この「なにか」を考えていきた。

まず、簡単なことから始めよう。地方自治体の首長選挙では、五党相乗りとか、ひどい場合は七

とほできない。みんないいことづくめののだ。こ

示したように、国政選挙においても、どこかを選挙せよといわれれば困ってしま

の「相乗り」ではないか。ここでも、選挙権が喪失せられる仕組みがで

言い過ぎであらうか。さ

らに、各党がキャッチフ

ーズにしているイメー

とほできない。みんないいことづくめののだ。こ

示したように、国政選挙においても、どこかを選挙せよといわれれば困ってしま

の「相乗り」ではないか。ここでも、選挙権が喪失せられる仕組みがで

言い過ぎであらうか。さ

らに、各党がキャッチフ

ーズにしているイメー

2 国民に選択 権がない

国民は、これだけ多数

党相乗りなどが普通にな

っている。そして、野党

は、地方政治にはイデオ

ロギーはいらぬ、住民

の利益で一致できる、な

どといった状態を正

当化している。この相乗

り現象のもとでは、住民

には選択の余地が失われ

ている、つまり選挙権が

奪われているに等しいの

は、当時の運動の組織なり

り方がそのまま復活する、と

いうことを意味しているの

ではない。

情勢の大きいが、なしく

づしいな転換

いま日本帝国主義におこっ

ている転換は、一九二九年の

大恐慌のように、一〇年余り

つづいて安定期が一夜に

して崩壊し、恐慌と戦争の時

代に突入したというような、

ドラスティックで不連続な変

化ではない。帝国主義者たち

は単一の世界帝国主義システ

ムのなかでなれあひ、もたれ

あっている。現在では世界帝

国主義システムの周辺部、第

三世界でおこっている危機

を、中心部への破局へと波及

させないように処理してい

大と減税は 矛盾する

公共投資というのは、税金を投資にまわすのだから、一方で減税をし、同時に公共投資を増やすというのは、他の条件がかなり大幅に変わらなければ、不可能なことなのだ。他の条件を大幅に変

とほできない。みんないいことづくめののだ。こ

示したように、国政選挙においても、どこかを選挙せよといわれれば困ってしま

の「相乗り」ではないか。ここでも、選挙権が喪失せられる仕組みがで

言い過ぎであらうか。さ

らに、各党がキャッチフ

ーズにしているイメー

とほできない。みんないいことづくめののだ。こ

示したように、国政選挙においても、どこかを選挙せよといわれれば困ってしま

の「相乗り」ではないか。ここでも、選挙権が喪失せられる仕組みがで

言い過ぎであらうか。さ

らに、各党がキャッチフ

ーズにしているイメー

運動の信頼関係を大切に 情勢の変化に対応しよう

二度同じ事は起らない

今年も誰かが厳しい年を予測している。税制改革による増税、円高と産業構造改革による失業者の急増、労働者と農民、中小零細業者にとっては大変辛い年になりそうだ。国鉄分割民営化で国鉄労組の解体、日教組の内部対立の深まり、総評を支えてきた屋台骨が崩れ落ちつつあるなかで、今秋全労協の発足をむかえようとしている。これに加えて、今年には米の輸入自由

は、当時の運動の組織なりり方がそのまま復活する、ということを意味しているのではない。

情勢の大きいが、なしくづしいな転換

いま日本帝国主義におこっている転換は、一九二九年の大恐慌のように、一〇年余りつづいて安定期が一夜にして崩壊し、恐慌と戦争の時代に突入したというような、ドラスティックで不連続な変化ではない。帝国主義者たちは単一の世界帝国主義システムのなかでなれあひ、もたれあっている。現在では世界帝国主義システムの周辺部、第三世界でおこっている危機を、中心部への破局へと波及させないように処理している。

大状況の認識一致は必要だが

安定期のなかで獲得してきた運動の特徴は、大状況について認識の一致した人達が組

織を作り、その組織に加入を求めていく、というものではなく、個別の課題をかかえた個人がそれぞれ寄り集って組織を作り運動をしてきた。それぞれの運動体の共同行動、連合にしても、大状況の認識の一致、綱領があつての統合でなく、運動のなかでつちか

えにたつたつながり、ネットワークである。そのネットワークの構造は単一ではなく重層的で柔軟かい。

このような運動体のあり方は、人間の意識を形成する奥深いところからの変化に由来するもので、たとえ階級闘争の季節になっても、過去にも一度戻せるものではない。われわれは、厳しい階級闘争の季節の再来を迎えて、安

やらない」といっている。だが、内需拡大のためには増税が必要になることを知らなかったわけではない。案のじよう、間接税では選挙公約に違反するといふので、売上税という名に替えて増税路線をとってきた。自民党は、選挙に勝ちさえすれば、あとはどうにでもなるという思いあがりか、ウソをつかしたわけだ。

共産党のウソは少しこみいつている。例の「軍事費削減、くらしをまもる」というスローガンを考えてみよう。いま述べたように、金銭的に、軍事費を「けずる」ぐらいのことではくらしがまもれるような状況ではないという実態がある。だが、ミサイルなどの人殺しの道具にカネを使わず、福祉などにまわしてほしいという気持ちがある民のなかに相当広汎にあることも事実である。だから、事実にもとづいてウソをまじえずに言えば、次のような言い方に

なるだろう。――軍事費を削減したくらしでは、皆さんのくらしはまもれない、資本主義はそれほどまでに落ちこんでいる。資本主義とは、カネが余っているために貧困や失業や倒産がおこる仕組みなのだ。――いっばうで、軍事の問題は、それ独自で重要な政治課題であることをはっきりと言わなければならない。

――世界平和を守る為には、わが国は軍事強国の道をえらんではいけません、と。

共産党のやり方は、大衆は身近な問題で説得しなければ軍事や防衛問題などを直接もちだしても

理解しない、という大衆蔑視の思想があるため、ごういうゴマカシを行うのだ。そしてさらに、軍事費を削減と暮らしやすくなるかのような幻想を広め資本主義の実際の矛盾をおおいかくすのだ。

これは非常にたちの悪いウソつきといふべきだ。

社会、公明、民社などの中間政党は、大衆にはキレイゴトをならべれば票になると思っているのか、税金も上げます、公共投資も増やしますと両立しないことを平気で公約している。これは、お

おらかなウソつきといふべきだろう。

つぎに、革命などを唱えながら、選挙のときは内需拡大などをいいたすようなミニ政党のウソはどうだろうか。

こういうところはおおむね、現在では資本主義の危機が深まっている、やがて大衆は立ち上がるだろう、革命的な状況に近づくだろうといううな期待をもっている。もしこの期待がしっかりと

いるなら、内需拡大などを言うべきではないのだ。なぜなら、内需拡大などは、資本主義の矛盾を緩和する資本の延命策であるわけだから、これには反対するか、黙って

いなければならないはずではないか。問題はどこにあるのか。資本主義の危機が深まれば大衆闘争が激化し革命情勢になるという「理論」を、彼らが本当は信じていないのか、われわれにはよくわからないが、これらの党は自分たいていう事を最大の問題だろう。

文・石川雄三



「(二)にも賛同願いたい」

資本主義奴隷 T

「原発がケシカラン」
という。人民新聞を読む
ほどの諸君にはまったく
異存のないところであら
う。小生はここで同じ
く、「タバコの煙がケシ
カラン」ということにも
諸君に賛同願いたいと思
う。

今日、タバコが人体に
非常に有害であり、喫煙
者のみならず、そばにい
てその煙を吸われる非
喫煙者にとっても同様に
悪影響を及ぼすことが明
かになっている。

白になっている。

タバコ喫煙は単に個人
の趣味、嗜好の問題では
ない。それは人間の生命
と健康に関わることであ
り、また、人前での喫煙
は人権侵害の問題とな
る。

全国の日雇い労働者の仲間たちへ

大阪 H

八七年二月、「関西新
空港」が「本着工」され
ようとしている。

住民の反対の声も聞か
ず、強行される。我々は
この事をだまされて見過ご
してはならない。

まきちらして恥じぬと
は、一体どういう感性を
しているのか。

活動家の集まりという
と、相もかわらずタバコ
の煙がもつと立ちこ
めるが、いい加減にこの
種の悪癖はやめにして
もらいたい。

もともと自他の生
命と人権を大切にしてい
てほしいものだ。これ
こそ、運動において多く
の人の心をとりこむ上
で不可欠の態度と思う
が、如何であろうか。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「本着工」を我々日雇
い労働者が先頭になって
絶対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

手をとって貸さなけれ
ばいけないのか。

四五年間、日本帝国主
義は、民間の空港を「軍
事空港」として朝鮮や中
国、東南アジアの人々を
「虐殺」する目的のみで
使用されたのだ。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

在の位置は、悲しく寂し
いものである。現実的に
「拒否」すれば釜ヶ崎に
は何万という日雇い労働
者がいる。代わりの日雇
い労働者は無数にいる。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「二月着工」を阻止する
闘いに立とうではない
か。(食べるため、生活
するため、好み以外の仕
事をしなければならぬ
だけではない。戦争と
侵略)そして「虐殺」の
みに生き延びる、帝国主
義者となるのである。)

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

「三里塚空港・二期工
事」をやったのは我々
日雇い労働者であった。

「甘言」と「ドーカ
」で狩りだされた。だ
が「関西新空港」は絶
対に阻止する闘いをし
なければいけない。

闘いに間に合う印刷所

ビラからパンフまで何でもできます
写植・ワープロどちらでもOK

中国語・朝鮮語・アラブ語・英語の写植も引き受けます。

人民新聞社 印刷部 06-358-4376

家事労働に賃金を

フェミニズムの新たな展望
マリ・アローザ・ダ・ラヌタ著
伊田久美子・伊藤公雄訳
二〇〇〇円



朝鮮戦争 逆コース

のなかの女たち
銃後史ノート戦後篇(第1回配本)
女たちの現在を問う会議 一五〇〇円
敗戦後40年、「第三世界の収奪のうへに、いまや日本は軍
事大国への道を歩む。再び「銃後の女たち」が作り出され
た。戦後の女の歴史を辿りながら新シリーズ。

中曽根治安体制批判

相次ぐ政治因への死刑・重刑攻撃 スパイ防止法、
精神衛生法改正などの治安立法の狙いの何かな。
大塚幸司、永田洋子、益永利明、坂口弘、麻生
令彦、高橋洋子、玉川洋次、張永健、一池、
欲望の商業性状況のなかへ
共産党宣言の思想(6) 杉村昌昭
廣松渉

インパクト出版会
東京都文京区本郷2-30-14
電話03-818-7576 発売元・イザワ書房